

ゲーテンベルク博物館

尾崎 広一

ゲーテンベルク博物館は、西ドイツのマインツ市にある。マインツはライン河中流のほとりにある人口約19万人の都市で、ラインラント・プファルツ州の州都でもある。市の歴史は古く、中世期にはローマカトリックの大司教区が置かれて、ライン河

Druckkunst) として新しく開館して以来、世界各地からすでに100万人をこえる見学者がここを訪れているという。

ゲーテンベルクは1434~44年にかけてシュトラスブルク(ライン河上流の小都市)に滞在し、そこで活版印刷術を發明、後に故郷のマインツに帰り印刷工場を設けた。最初のうちは天文暦や免罪符などを印刷していたようだが、2~3年後には技術も向上し聖書の印刷を手懸けるようになった。



当地の絵はがきに見える「42行聖書」

中流域の宗教的、政治的中心地として栄えたところだが、一般にはライン河下りの観光船の発着場として、よく知られている。ゲーテンベルク博物館は1398年(?)当地に生まれた活版印刷術の發明家ゲーテンベルク(本名; Johan Gensfleisch Gutenberg)にちなんで1900年に設立された。当時の建物は第二次世界大戦で破壊されてしまった

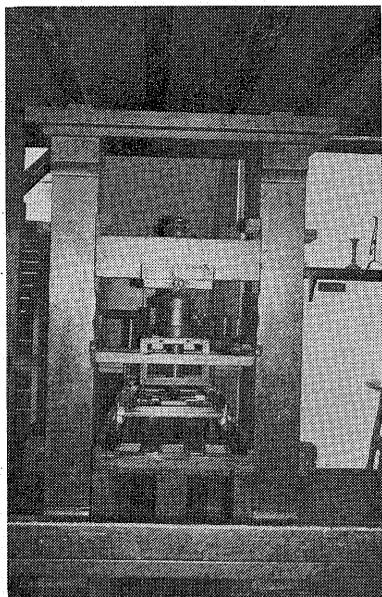
が、1962年に近代的展示場を備えた「印刷芸術の世界博物館」(Weltmuseum der 彼が印刷したといわれている2種類の聖書について、当博物館の案内(録音テープおよびパンフレット)およびOswald, J. C 著 玉城肇訳「西洋印刷文化史」に従えば、概略、つぎのように説明できよう。

42行聖書は、パリにあるマザラン文庫[現

在はフランス学士院 (Institut de France) に帰属) において1760年に発見されたもので、別名『マザラン聖書』とも呼ばれている。印刷紙数641葉 (2つ折), 1282頁からなるラテン語訳の聖書で、ページ等は記されていない。使われている紙は手漉でキメ細かな非常に良質のものようである。また、他にヴェラム (Vellum) という子牛皮に印刷したものもあるらしい。42行聖書は約210部印刷されたといわれているが (そのうち子牛皮製は約30部)、現在まで残存が確認されているのは、この博物館のものを含めて47部である。(完本は25部程で、ニューヨークのモルガン図書館所蔵のものが最上の出来だといわれている)。なお、36行聖書で現存するものはドイツ国内に6部、世界中でも10部だという。

聖書が印刷された時期についてはあまり明確な回答は得られないようである。36行聖書と42行聖書のいずれが先に印刷されたか議論もあるようだが、一般には後者の方が先だといわれている。いずれにしても1450~53年ごろには印刷されているようだ。この2種の聖書は「カトリコン (Catholicon)」と呼ばれる神学辞典と共に印刷史上非常に貴重な資料とされている。

地上3階地下1階の博物館内には15世紀当時のグーテンベルクの印刷作業場を復元したコーナー (写真右) や図書室があるほか、印刷機の歴史、紙の歴史、活字の歴史などの印刷史上貴重な資料が多数展示されている。活版印刷術が発明されてからすでに500年以上もたった今日、印刷技術の発達は目覚ましく、多種多様な活字でおびただしい数の印刷物が世界中のいたる所で出版されている。(とくに、コンピューター



管理による活字の登場には目覚ましいものがあり、「A. Smith 著 Good-bye Gutenberg, 1980 Oxford U.P.」という本まで刊行されている)。グーテンベルク博物館では、毎年7~8回特別展示会を開いて、現代における「本や活字」に関する芸術的創作や、「本の歴史」に関する文献を国の内外から探し集めて紹介している。また、各季節ごとに本の歴史に関する講演会を開くなど、たえず「生きた博物館」としての活動を続けている。

(1979年6月訪独)
(参考書誌部一般参考課)